



大妻多摩中学校

二〇二五（令和7）年度

入学試験問題（第一回）

【国語】

時間 50分

2月1日（土）

【注意事項】

- 1 問題は19ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学生がくせいの時に将棋しょうぎを指していましたが、アマチュア強豪きやうごうには①物言いをする人をしばしば見かけました。私が所属しゆくした大学の将棋部しょうぎぶでも、一般いっぱんの会話では聞いたことがないような辛辣しんれんな言葉が飛び交かっていて、私もたびたびそういった辛辣しんれんな罵倒ばとうの対象となり、悔くやしい思いをしなかったと言いえば嘘うそになります。私はそんな将棋指しょうぎさしたちのことが、結構好きです。

将棋の世界は「優しい嘘」が通用くわうようしない、というか、②有意義いういぎに機能しない場所です。詰みつみがある局面では、誰だれがどう言ってもそれは詰んでいるのであり、それを読めなかった人は弱いのです。それ以上でもそれ以下でもない。将棋に勝った人が負けた人に向かつて「指そうと思おもったら、隣となりのコマに指が当たって動いて、それがたまたま好手こうてになりました」とか、「全部、良い手を指されたのに、私の勝ちになっていて、一体どうなってるんでしょね」とか、③歯はの浮うくようなことを言ってみても、嘘うそがバレバレで輕蔑けいべつされるだけです。たとえいくら辛つらくとも、本当のことを言わなければ、負けた原因がわからず、相手も自分も将棋が強つよくならない。

④将棋指しょうぎさしは知らず知らずのうちに、本当のことを言ってしまう癖くせがついています。

⑤しかし、そういった将棋指しょうぎさしの習い癖くせは、外ぐわいの世界せかいに出ると一定の頻度ひんどで問題を引き起こします。それは私の人生において時起こってきたことであり、一部の将棋部しょうぎぶの先輩後輩せんぱいこうはい諸氏しよしを見ても容易に想像できることです。本当のことを言い過ぎると、あの種の社会不適応者しやかいふていおうしやという烙印らくいんを押おされてしまうのです。それは、この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるし、一面的な「本当」を主張するだけでは解決しない問題も、現実にはとても多く存在しているからです。

世に溢あふれる「本当でないこと」

中国の有名な故事成語に①「鹿を指して馬と為す」という言葉があります。これは秦しんの始皇帝しやうしやうてい亡なき後、権勢けんせいを誇ほこった②宦官かんがん趙高ちやうかうに関する逸話いつわです。趙高は幼き二世皇帝にせきやうていの胡亥こがいを③傀儡かいらいにして帝国の実権じぎけんを握にぎっていましたが、ある時胡亥に「珍しい馬

「がおります」と鹿を献上けんじょうしました。胡亥が「これは鹿ではないか」と問うと、趙高は「いいえ、これは珍しい馬でございます。皆みなはどう思うか？」と周囲の家臣に尋ねました。これは群臣の自分への忠誠心を試すために行った趙高の策略で、鹿だと答えた家臣は、軒並み捕らえられて処刑しよけいされたそうです。一説には、これが馬鹿の語源となったとも言われており、鹿を馬というのはバカなことというふうにも、そんな状況がバカげているというふうにも解釈かいしゃくできる話です。

現代ではさすがに処刑されることはないですが、本当のことを言うことで、自分が属する組織が困ったことになったり、関連する人との人間関係が悪くなったり、あるいは自分の評価が下がったりというような状況は、古今東西ごくごく普通ふつうに発生します。だから、多くの人がそのバカな状況をどうにかこうにかやり過ごしています。言う必要のない本当のことは黙だまっていたり、わからないとか、知らないことにしたり、
⑥ 開き直って嘘を言うこともあるでしょう。ある国の総理大臣は国会で118回も嘘の答弁を行い、その理由を「秘書が本当のことを知らせなかったから」と説明しました。私はこの総理大臣が少なくとも119回の嘘をついたのではないかと思います。本当のことが言えない、もしくはとても言いにくい状況というのは、このように現実ひんぱんに頻繁に起こります。

そして優しい嘘

「嘘をついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。幼稚園ようちえんでも、小学校でも、中学校でも、そして大人になっても。
⑦、この世は「嘘」、少なくとも「本当でないこと」に満ち溢あふれています。⑧ その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もあるでしょうが、必ずしもそういうものばかりでもありません。灰谷健次郎さんの『少女の器』という小説に、主人公の絆かすりと上野くんという少年のこんな会話がでてきますが、私はこのくだりをとても印象深く覚えていてます。

「その章子さんという人ははじめ、おまえのおやじが好きやってんやろ。結婚けっこんしてもらわれへんで、よその男のそこへ行つたと。

そやろ」

そういう復習の仕方に緋はとまどったが、一応、

「そう」

とこたえておく。

「そうしたけど、うじうじするから、よう考えたら、やっぱりおまえのおやじが好きやったというわけや。なんとかならへんかというてしつぽ巻いて帰ってくる人間にカッコええのがおるか。前と違う章子さんだったとおまえいうけど、そんなん当たり前や」
惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ、と少年はいった。

「頭のええ人間ちゅうのはやっぱり冷たいワ。ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ。おまえ、なんで、おれを睨むねん」

緋は唇をかんでいる。

世の中には、それが本当であつても言わなくていいこと、本当のことを言うことで事態が良くならないこと、そんなこともたくさんあります。「優しい嘘」が人としての生きる知恵であり、必要悪として存在していることは紛れもない事実です。そこで「いや、だってあの犬、汚いやんか」と言ってしまうのが、将棋指しだったりするのですが、「優しい嘘」というものが、本当に悪いことなのか、どこまでが許されるのか、私にはよくわかりません。

将棋の世界で「優しい嘘」が有効に機能しないのは、結果が短期間に出る、良し悪しが明白な世界だからだと思います。勝ちに導く手が好手で、負けにになってしまう手は悪手です。しかし、現実の世界はそんな単純にはできていない。ドブに落ちて泥にまみれる経験をするのが、その後の人生の成功につながるがていくようなことはよくある話です。ドブに落ちたら負け、ではないのです。だから、ドブに落ちたことを責め立てるより、^⑨その傷を癒し、心も体も回復させていく「優しい嘘」の方が長期的な、好手、となることだってあるのです。

また、嘘はいけないと言っても、鹿を鹿と言えは首をはねられることがわかってる状況で、「鹿！」と言うのは、実際鹿鹿なことはないのかと、思わぬこともあります。映画やドラマであれば、そういう鹿鹿な正直者を助けてくれるヒーローが出てきたり、その人がヒーローに変身できたりするものですが、現実にはそんなことは起こりません。(注4) 物言えは唇寒し秋の風とは、(注5) 蓋し名言です。

そのはざまで上を向く

では一体、^⑩なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？ その本当の問題は、安易に嘘をつく生き方、その生きる姿勢にあるのではないかと、私は思います。生きていると、いろんな苦しいことがやってきます。志望校に入るために勉強することや試合に勝つためのスポーツの練習もそうでしょう。与えられたノルマをこなすことや、何かの仕事を成し遂げることなど、苦しい思いをしなければ達成できないことが多くあります。もちろん中には、そうやって頑張ってみても越えられない困難もあるでしょう。結果が失敗に終わること自体は決して悪いことだと思いませんが、私がここで問題にしているのは、そういった困難や苦しさで真剣に向き合わず、安易に逃げてしまうことです。それは心理的な癖のようなものになり、人として成長するための大切な基盤を蝕んでいきます。

嘘をつくという行為は、そういう困難や苦しさから逃げてしまうことと根が同じだと思います。嘘をつけば、目の前の問題がとりあえずその場では解決します。でもそんなやり方が当たり前になってしまうと、人はいざという時に頑張れなくなってしまう。いつも何かを誤魔化して生きること慣れてしまうのです。そういった精神の在り方が、その人の人生全体を何か偽物にしてしまう。嘘にはそういう魔力があり、そこに堕してしまふことを戒めるために、聖書も、コーランも、先生も、親も、口をそろえて「嘘をついてはいけない」と言うのです。

嘘や不善とまったく無縁むえんのヒーローのように常に格好よく生きることが、生身の人間にはなかなか難しいことです。でも、「はい、趙高さま、それは馬でございます」と魂たましいを売ったような生き方をするのも、やっぱり違う。私たちはそのはざまで、ちよつと格好悪く、でも頑張つて生きて行く。そんな生き方しか残されていないのではないか、そんなふうに思ったりもするのです。常に理想を追い求めていけば良いというほど世界は単純ではないけれど、それは理想を忘れてよいということとは、やはり違うのです。だから、いつも鹿を鹿と言う必要はないのかもしれないけれど、もしたとえば、自分が馬の分類の専門家だったら……、そう、もしそうなら、やはり「鹿！」と言おうと思うのです。人生には^⑪そういうことが必要なことはあるし、鹿ば鹿かになつても悔くいがない、と思えるようなものを持ってない人生は、なんだかつまらない。私は将棋指しの端はしくれとして、そう思うのです。

(なかやしきひとし
中屋敷均『わからない世界と向き合うために』〔ちくまプリマー新書〕より)

(注1)「鹿を指して馬と為す」——人を威圧いあつして間違いを押し通すこと、また、人をだましておとし入れることのたとえ。

(注2) 宦官かいがん——役人のこと。

(注3) 傀儡かいらい——自分の意志や主義を表さず、他人の言いなりに動いて利用されている人のこと。

(注4) 物言ものごとえは唇寒し秋の風——何事につけても余計なことを言うと、災いを招くということ。

(注5) 蓋けだし——物事を確信をもつて推定する意を表す。まさしく。たしかに。思うに。

問1

① には、「遠慮えんりょせずはつきりと言う」という意味の慣用句が入ります。空欄に入る慣用句として最も適切なものを、次の

ア オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 口が減らない

イ 目も当てられない

ウ 舌を巻く

エ 歯に衣着せぬ

オ 水を差す

問2 — 線部②「有意義に機能しない場所」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの

中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「本当ではないこと」に満ち溢あふれている世界だから。

イ 本当のことを言うことで、困る人がいる世界だから。

ウ 結果が短期間に出る、良し悪しが明白な世界だから。

エ 「嘘をついてはいけない」と、言われる世界だから。

問3 — 線部③「歯の浮うく」とありますが、この言葉の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答え

なさい。

ア 軽薄けいはくで見え透すいた言動に接して、不快な気分になるさま。

イ 不快な音を耳にして、歯が浮き上がるように感じるさま。

ウ 心がうわついて他人に対し思慮しりょに欠ける行動をするさま。

エ 嬉しい気持ちになり、そわそわして落ち着きがないさま。

問4 ④・⑥・⑦に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

い。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア しかし イ ただし ウ しかも エ だから オ あるいは

問5 — 線部⑤「そういった将棋指しの習い癖は、〃外の世界〃に出ると一定の頻度で問題を引き起こします」とありますが、それ

はなぜですか。その理由を、本文中の言葉を使って五十字以上、六十字以内で答えなさい。

問6 — 線部⑧「その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もある」とありますが、なぜそれが「自分を守る嘘」になるのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本当のことを言うことで策略にはまり、バカげた状況を作ってしまった、最悪の場合捕らえられて処刑されてしまうことがあるから。

イ 本当のことを言うことで、権力を持つ人への忠誠心がないと見なされ、自分にとって不都合な状況が引き起こされる可能性があるから。

ウ 嘘をつくことにより権力を持つ人に気に入られ、高い地位に上り詰めることができたり、重要な仕事を任されたりすることがあるから。

エ 嘘をつくことによりバカげた状況が作りあげられてしまい、人間関係が悪くなったり自分の評価が下がったりすることがよくあるから。

問7 — 線部⑨「その傷を癒し、心も体も回復させていく『優しい嘘』の方が長期的な、好手、となることだってある」とありますが、それはなぜですか。その理由を二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

問8 — 線部⑩「なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？」とありますが、それはなぜですか。その理由として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 嘘をつくことをいつまでも続けてしまうと、人はいざという時に頑張れなくなってしまうものであるから。

イ 嘘をつくことと目の前の問題がとりあえずその場では解決するが、やはり簡単には困難から逃げられないから。

ウ 嘘をつくことを続けると、人というのはいつものなにかを誤魔化^{ごまか}して生きること慣れていつてしまうから。

エ 嘘をつくことは困難や苦しさから逃げることで、人として成長するための大切な土台を壊してしまうから。

問9 ―線部⑩「そういうこと」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言う必要のない本当のことは、知らなかったことにしておくということ。
- イ 馬の専門家として、鹿を見て「それは鹿だ」と言わないようにすること。
- ウ 本当のことが言いにくい状況であっても、嘘をつかないようにすること。
- エ 本当のことを知っていると知られないように、開き直って嘘を言うこと。

問10 この文章に関する説明として、適切なものには○、不適切なものには×で答えなさい。

- ア 世の中の「嘘」というものの中には「優しい嘘」というものがあり、それは人が生きるための知恵であって、必要悪として存在しているという事実がある。
- イ 世の中には本当のことを言われると困る人が一定数存在するため、本当のことを言うと、それを言った人は社会不適応者として集団から排除されてしまう。
- ウ 嘘をつく人は、困難や苦しさ^{とら}と真剣に向き合わず安易に逃げてしまうため、人として成長するための基盤が損なわれ、人生を単純なものだと捉えてしまう。
- エ 正直にものを言えば自分にとって不都合なことが起こると分かっていたとしても、嘘をつかずに正直に自分の意見を述べることは時には必要なことである。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学三年生で文芸部に所属している春希^{はるき}は、文章や詩を書くのが大好きで、インターネットサイト「いちごっこ」で詩を発表していた。しかし、心ないコメントに傷つき、投稿^{とうこう}から離^{はな}れていた。ある日、父親の友人で作家の沙羅^{さろ}さんから、意外な依頼^{いらい}が届いた。

「春希さま よかったら、このゲラを読んでくませんか？ 作家の仕事を体験できるいいチャンスにもなるかなと思って、依頼^{いらい}します。春希ちゃんにお願いしたいことは、次の通りです」――。

そんなお手紙といっしょに、^①ぶあつい紙の束^{たば}がどさつと（それは本当に、どさつ、という感じだった）届いたのは、今月の初めだった。

ゲラというのは「ゲラ刷り」の略語で、作品を校正し、誤字や脱字^{だつじ}や文法ミスなどがあれば直し、作家がさらに表現を練ったり、文章を磨^{みが}いたりして、より完成度の高い作品にいくために印刷されたもの。印刷所から、最初に届くのが初校ゲラで、そのあと、再校ゲラ、三校ゲラ、念校、と、何度か出てくるそうだ。

体裁^{ていさい}としては、あとで実際に本になるページの、まだ綴^とじられていない紙の束。そこに、沙羅さんの書いた原稿^{げんこう}が活字になって、印刷されているわけである。

あたしに依頼されたのは、それを読みながら、

(1) 疑問を感じたところ。

(2) 事実とは違^{ちが}っているかもしれないと思えるところ。

(3) 単純な誤字や脱字^{だつじ}や文法ミスなど。

(4) 感想、提案、意見、リクエストなどなど。

これらを赤ペンでどんどん書きこんでいく、という作業。

そう、あたしが作家の文章に、赤ペンで書きこみをしていく！

友だちの作文に書きこみをするのは、クラブ活動でやってるから、慣れてるけど、プロの作家の書いたものに、中学生のあたしが書きこみをするなんて！

② ^{おそ} 畏れ多い！

出版社では、この作業を、編集者と ^(注) 校閲者 ^{こうえつしゃ} がおこなっているという（しかも、複数の人たち）。もちろん沙羅さんもおこなっている。

それをあたしにも依頼してくれたのだ。

いろんな人の目が入っていた方がいいから、という理由で。

「春希ちゃん ^③ に行つて、自分の目で風景を見てきた人なんだから、編集者や校閲者の気づけないことにも、気づけるかもしれないし、一読者として、読んで感じたことを教えてもらえたらうれしい」とのこと。

あたしに与 ^{あた} えられた時間は、二週間。

あたしは ^④ 国語辞典（電子じゃなくて紙の辞書）をそばに置いて、赤ペン ^{にぎ} を握りしめて、ゲラ ^{かくとう} と格闘した。

それは文字通り「格闘」と呼べる日々であり、時間だった。

小説の内容は、日本に住んでいる男と、アメリカに住んでいる女がギリシャで会う、というお話。最初から最後まで、たんと、ふたりのギリシャ旅行が語られていく。男にも女にも、それぞれの家庭があり、法律上のパートナーがいる。だから、ふたりはどこで何をしていても、心のなかでは「ここにはいない人たち」のことを考えている。

⑤ ^{かな} 悲しいような、哀しいような、カナシイような、物語なのだ。

このような物語とあたしは、なぜ、格闘しなくてはならなかったのか。

それは、言葉には、本当にいろんな意味があつて、いろんな使われ方があつて、意味と使われ方は、その前後に語られていることや、そこでは語られてないことも関係があつて、ようするに、小説というのは、言葉と言葉 ^{きんみつ} が緊密につながり合っていて、たった

ひとつの言葉を変えただけで、その段落がすべてがらりと変わってしまうこともあって、段落だけじゃなくて、章全体にも影響を及ぼしてしまうことがあって、いや、これは言葉には限らなくて、⑥、つまりたったひとつの「、」の位置を変えただけで、何もかもが変わってしまうようなこともあって——この文章、いつまで続くのかわからないけど、とにかく、とにかく、言葉ってすごい、言葉っておそろしい、言葉って、と、あたしは格闘をしていたのだった。

言葉って、疑いはじめると、きりが無い。

たとえば「愛」という言葉ひとつを取っても、それはどういう愛なのかという疑問が発生する。

愛って、男女や男男や女女や、恋愛や色恋の愛だけじゃなくて、母性愛もあれば、父性愛もあるし、友情だって愛だし、同情だって愛だし、献身も思いやりも情も愛だし。

それに、ときには憎しみが愛だったりすることも、あるのである！

生まれてからきょうまで、あたしはこれほどまでに辞書を引いたことがあっただろうか。生まれてからきょうまで、あたしはこれほどまでに言葉を疑ってみたことがあっただろうか。

⑦

それにしても作家とは、毎日、毎日、こんなことをやっているのか。

作家とは、言葉を使っている、のではなくて、言葉に使われているのではないか。そう、つまり、作家とは「言葉に尽くし、言葉に奉仕する、召使い」のような存在なのではないか。小説家は、小説を書いているのではなくて、小説によって、⑧のではないか。

「書く」とはすなわち「尽くす」こと。

なあんてことを思いながら、あたしは今夜も、(愛すべき)ゲラとの(幸せな)格闘を続けているのであった。

観念的な言葉を使わないこと。

論理的に書くこと。

これって、頼まれたゲラ校正の作業（というか、仕事と言うべきか）を終えて、沙羅さんに送ったあと、お礼状とともに、あたしの赤字に対して、沙羅さんから返ってきた言葉。

観念的って、どういうこと？

論理的って、どういうこと？

さあ、辞書を引け、辞書を！

観念的な言葉を使わないということは、説明するのではなくて描写せよ、ということだ。具体的に、生き生きと。

論理的に書くということは、筋道を立てて、思考の流れが読んだ人にもしつかりとつかめるように、^⑨垂れながすのではなくて、推敲を重ねて書け、ということだ。

これがあたしの理解である。

ここでとつぜん、沙羅さんの小説のなかに出てきたフレーズで、あたしがすごく好きだと思ったもののひとつを思いだす。

それは――

「海辺のレストランの屋外席の青い空のもと、孤独と空腹は、同義語なのである」だ。

ナプリアンのレストランで向かいあっているとき、女は「孤独」で、男は「空腹」なんだけど、それらは「同義語である」と、作家は書く。

^⑩これらはきつと、観念的な言葉ではなく、よってこの文には論理性があるのである。なぜなら、女は男と向かいあっても寂しくて、孤独で、つまり、心は空腹だし、一方の男の心には愛は満ちているものの、体は食べ物求めているのだから、やっぱり空腹。ということは、つまり、満腹と空腹も同義語ってことか。ん？ OK？

『青春この指とまれ』の編集長・佐々木まいこさんから電話あり。

冬号に一挙掲載された「ミニ詩集――はるかな春の希望」（あたしの詩・十編）の評判がすこぶるよくて、編集部には「もっとこの

人の詩を読みたい」というリクエストの電話やメールも複数、届いているという。

「私も同感です。私もあなたの詩をもっとたくさん、浴びるように読んでみたいと思っています。編集部内でもみんなそう言っています」

「ほんとですか？」

「ほんとです」

「あの、わたしって、まだ中学生だし、プロの作家でもないし」

「詩には年齢ねんれいは関係ないし、詩にはプロもアマありません」

「ほんとですか？」

「ほんとです。詩人の私が言ってるんですから、間違まちがいありません」

そこで、これまでに書いた詩のストックがまだあるのであれば、それらをまとめて送って欲しい、そして、新作もどんどん書いて送って欲しい、そして、数がそろえば、それらをまとめて詩集を出したいと思っている、とのこと。

「し、ししゅうですか？」

あたしの頭には、チクチク針を刺さす刺繡ししゅうが浮うかんている。

「詩集です」

「それって、あの、紙に印刷されて、本の形になっているものですか？」

「その通りです」

「あの、ネット詩集とかじゃなくて、リアルな紙の？」

「うちで出しているものは、紙の本だけです」

「本になったら、どうなるんですか？」

「書店に並びます。買っていかれる方もいるでしょうね」

「ほんとですか？」

⑪ さいじょう 西城さんって、疑い深い性格なんですね」

「すみません」

「謝らなくていいです」

「ごめんなさい」

電話線の向こうのはしつこで、佐々木編集長の笑い声がした。

電話線のこっち側で、あたしの顔は笑っていない。

⑫ きんちやうかん 大変なことが起こっている、という緊張感が全身を走りぬけていく。まるで稲妻いなずまみたいに。

佐々木まいこさんは言った。

とりあえず、近日中に、打ち合わせをしたい。

東京から岡山まで、会いに行くので、場所を指定して欲しい。

電話を終えたあと、あわてて、両親に相談したら、駅前のホテルのティールームがいいんじゃないかと言われた。アドバイスに従うことにした。最初のあいさつのときだけ、チチがいつしよに来てくれることになった（チチよ、ありがとう）。

詩集にはイラストも付くことになっていて、イラストレーターの人と、発行人の佐々木まいこさんのほかに、詩集の編集を実際に担当してくれる編集者もいつしよに来てくれるという。その担当者といつしよに、沙羅さんのゲラで経験させてもらったのと同じことを、詩集の出版の前にもするみたいだ。

ああ、ゲラで勉強しておいてよかった！

しかし、あまりにもとんとん拍子に物事が進みはじめて、あたしは⑬ い あっけにとられている。あたしの詩が勝手に成長して、なん

だか、あたし自身は取りのこされてしまっているようなのだ。
もっと、うれしくなってもいいはずなのに、今のあたしは、うれしさを通りこして、恐怖きようふを感じている。

「幸せすぎて、不幸」とでも言えるような状態だ。

これって、⑭ 的表現じゃないし、きわめて⑮ 的なんではなからうか。

(こ
で
ま
り)
小手鞠るい『文豪中学生日記』〔あすなろ書房〕より)

(注) 校閲者——原稿を読み、内容が事実と相違ないかなどを確認する仕事をする人。

問1——線部①「ぶあつい紙の束」とありますが、それは何ですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誤字や脱字や文法ミスなどを直した原稿。
- イ 沙羅が完成させたばかりの手書きの小説。
- ウ 春希が以前書いて沙羅に送っていたゲラ。
- エ 沙羅の原稿が活字になって印刷されたもの。

問2 — 線部②「畏れ多い！」から読み取れる「あたし」の心情を説明したものとして、最も適切なものを次のア～エの中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 中学生がプロの作家の書いたものに書きこみをするなんて分不相応だと思っている。

イ 素人の自分がプロの文章の誤字や文法ミスを見つけることを誇らしく思っている。

ウ 作家になるという夢をかなえる大きなチャンスを逃したくないと思っている。

エ プロの完成度の高い作品をいつも読んでいる編集者は尊敬できると思っている。

問3

③ に入る国名を本文中から抜き出しなさい。

問4

— 線部④「国語辞典」とありますが、次の語句を国語辞典に載っている順に並べ替え、記号で答えなさい。

ア 詩集 イ 出版 ウ 思考 エ 小説

問5

— 線部⑤「悲しいような、哀しいような、カナシイような」という表現には「あたし」のどんな思いがこめられていますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たどたどしい言葉しか出てこないくらいすばらしい物語だった、という思い。

イ 話し言葉を巧みに使うことにより物語の魅力を伝えたい、という思い。

ウ 物語の雰囲気表現するのにどの表記がふさわしいか選べない、という思い。

エ 三回繰り返しることによってテンポよく感情を伝えたい、という思い。

問6 ⑥ に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 濁点 イ 半濁点 ウ 読点 エ 句点

問7 ⑦ に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ない イ ある ウ はい エ 疑った

問8 ⑧ に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 尽くされている イ 書かされている ウ 奉仕されている エ 思われている

問9 — 線部⑨「垂れながすのではなくて、推敲を重ねて書け」とありますが、ということが求められていますか。「読み手」という語を必ず使い、四十字以内で具体的に説明しなさい。

問10 — 線部⑩「これら」とは何を指しますか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問11 — 線部⑪「西城さんって、疑い深い性格なんですね」とありますが、佐々木まいこさんは、「あたし」のことをどのように感じていると読み取れますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詩の印象と違い、大人びたところがあると感じている。

イ なかなか信じようとしなないことに対し、いらだちを感じている。

ウ びつくりしていることに対し、ほほえましさを感じている。

エ 話が先に進まないことに対し、もどかしさを感じている。

問12 — 線部⑫「大変なこと」とはどのようなことですか。最も適切なものを二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

問13 — 線部⑬「あつけにとられている」とは、どのような状態ですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうしてよいかわからないでぼんやりしている状態。

イ 予想していなかったことが起こり意外に思っている状態。

ウ 手段が尽きてしまいどうしていいか迷っている状態。

エ 不安でありながらも期待に満ちあふれている状態。

問14

| |
|----|
| 14 |
|----|

 ・

| |
|----|
| 15 |
|----|

 に入る言葉として最も適切なものを、それぞれ二字で本文中より抜き出さない。

問15 この小説の文章表現の特徴として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 作家の仕事の一部分が、中学生の「あたし」の目線で語られている。

イ 会話文が効果的に使われ、登場人物の様子がいきいきと描かれている。

ウ 「！」や「？」などが多く使われ、テンポのよい文章になっている。

エ 読み手に対して疑問が投げかけられるなど、対話的な文章になっている。

三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の――線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① フウフ別姓^{べつせい}について意見を交わす。
- ② 小説をジユクドクする。
- ③ ジユウコウ感のあるハードカバーの本。
- ④ ヒヒョウ家の文章を読む。
- ⑤ 国語のコウギを受ける。

問2 次の文章の①～⑤に当てはまる四字熟語として最も適切なものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、

記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア 切磋琢磨^{せつさくたくま} イ 十人十色 ウ 一期一会
- エ 一朝一夕 オ 日進月歩 カ 一日千秋

ごきげんよう。大妻たま子です。ここではみなさんに向けて、学校の様子を紹介しようと思います。大妻多摩では「寛容と共生」の理念に基づき、①の多様な個性を持つ生徒が、お互いの個性を大切に過ごしています。図書室や自習室などの充実した設備のなかで、すばらしい仲間たちと②しながら成長していくことができますよ。部活動も盛んで、初心者として始める人もみな③の勢いで成長しています。体育祭・文化祭・合唱祭の三大行事は特に盛り上がるため、みな、④の思いで待ち望んでいます。さて、人と人との出会いは⑤です。大妻多摩でみなさんと出会えることを願っています！

以下余白

